

相模湾における イタチザメ（メジロザメ目，メジロザメ科）の出現状況

崎山 直夫・瀬能 宏

Tadao Sakiyama and Hiroshi Senou: Records of Tiger Shark,
Galeocerdo cuvier (Carcharhiniformes: Carcharhinidae) from Sagami Bay

Summary: Occurrences of tiger shark, *Galeocerdo cuvier* (Péron et Lesueur, 1822) (Carcharhiniformes: Carcharhinidae) in Sagami Bay are reviewed. It is clear from several records that the species occasionally enters to the bay. However, the record based on a specimen which guarantees the identification and various biological informations is known to only an example in this report. It is necessary to construct a network among citizens, fishermen's cooperatives, fisheries experimental stations, aquariums, museums, etc. for collecting of occurrence records of large elasmobranchs.

はじめに

イタチザメ *Galeocerdo cuvier* は、伊豆諸島以南の全世界の熱帯・亜熱帯海域に分布し、沿岸から外洋にかけての表層から水深 140 m までの水域に生息するが、サンゴ礁域や内湾の汽水域にも出現するとされる（仲谷，1984；吉野・青沼，2000）。最近では、青森県牛滝（塩垣ほか，2004）や秋田県男鹿半島（杉山秀樹氏私信）からも記録されている。

Senou *et al.* (2006) によると、相模湾におけるイタチザメの科学的記録は、山田・工藤（1996）が唯一のもので、これが相模湾における本種の初記録となるが、証拠となる標本は残されていない。本種のような大型になる魚類は、漁業で混獲されてもその場で廃棄されたり、標本として残すには大規模な設備が必要であるなど、記録として残りにくいという背景がある。

今回は第 1 著者が新江ノ島水族館（旧江ノ島水族館も含む）で魚類飼育に関わるようになった 2000 年以降、情報が残っている 2001 年 10 月と 2007 年 12 月に採集された個体について報告する。それぞれ漁業従事者、漁業共同組合から連絡を受けて引き取ったものである。体表の模様から他のメジロザメ類と容易に区別できるためか、漁業従事者も普段見ないサメとして水族館に連絡をいただけたようである。なお、後者は相模湾内で採集された本種の標本に基づくものとしては初めての記録となる。

江の島地先での記録

2001 年 10 月 30 日、藤沢市片瀬海岸地先（図 1 B）で江ノ島片瀬漁協の漁船湘南丸のシラス船曳き漁に入網した雌個体（図 2）である。

連絡を受けて水族館搬入後、展示水槽 70 t（変形三角形）の水槽で展示した。2008 年 11 月 1 日死亡。死

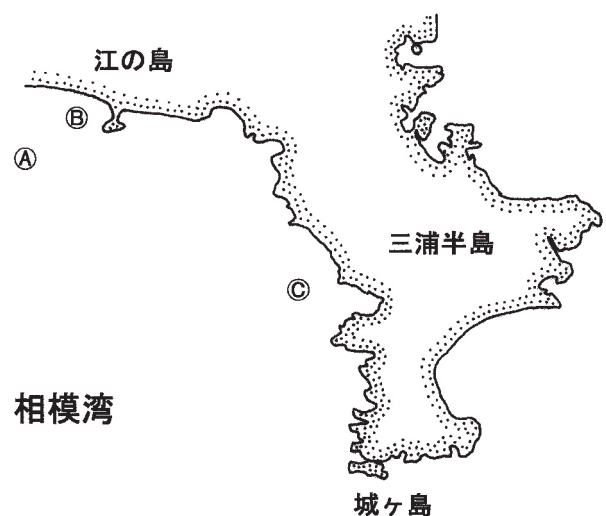


図 1. 相模湾におけるイタチザメの出現位置. A：藤沢沖定置（山田・工藤，1996）；B：江の島地先，本報告；C：佐島沖大楠定置。



図 2. 江の島地先で採集されたイタチザメ *Galeocerdo cuvier*, 全長 1,060 mm.



図 3. 佐島沖で採集されたイタチザメ *Galeocerdo cuvier*, 全長 1,020mm (KPM-NI 21084).

亡時の全長 1,060 mm, 体重 4,500g であった。ただし、この値は死亡時に本個体が同居していたタイマイに咬まれて頭部の一部が欠損していたので参考値となる。死亡後、胃内からは魚骨、魚鱗、鳥の羽、釣り針 2 本が確認された。

佐島沖での記録

2007 年 12 月 19 日に横須賀市佐島沖の大楠定置網 (図 1 C) に入網した雄個体 (図 3) である。

本個体は定置網に入網し、佐島漁港内の生簀に収容されていた。連絡を受け確認後、水族館に持ち帰り、バックヤードにある 23t 円型キャンパス水槽で飼育をおこなった。搬入後、すぐに餌付いたが、飼育期間中を通じての摂餌は不安定であった。翌 2008 年 2 月 4 日から一般に展示した。同年 2 月 12 日に死亡。死亡時の全長は 1,020mm, 体重は 2,770g であった。飼育中の摂餌が不安定であったために、採集時よりかなり痩せたと思われる。

本個体は、神奈川県立 生命の星・地球博物館に標本

番号 KPM-NI 21084 として登録・保管された。

相模湾における出現状況と今後

山田・工藤 (1996) は、藤沢沖定置 (図 1 A) に入網したイタチザメを相模湾からの初記録として報告した。彼らの記載では漁獲場所が茅ヶ崎定置となっているが、正確には藤沢沖定置である (山田和彦氏私信)。山田・工藤の報告や本報告のほか、詳細は不明だが油壺マリンパークでは 4 回の入手記録があり (茶位 潔氏私信)、本種は時々相模湾に侵入することは確実である。山田・工藤 (1996) と本報告におけるサイズは全長 1 ~ 4m, 出現時期は 10 ~ 12 月であった。本種は熱帯・亜熱帯性で、「最も凶暴な人食いザメの 1 種」とされ、また「沿岸性が強い」と言われている (仲谷, 1984)。最新の地球温暖化予測情報第 7 巻 (気象庁ホームページ, 2008 年 12 月 8 日アクセス) によれば、相模湾近海の年平均海水温は今後 100 年で最大 2.1℃上昇すると予測されており、湾内で 4m もの個体が確認されていることもふま

えると、今後、マリンスポーツの盛んな相模湾においては様々な問題となり得るし、漁獲物への食害や漁具破損といった漁業への被害も予想される。

本種に限らず大型板鰐類全般に言えることであるが、同定はもちろんのこと、サイズや成熟度、食性といった生物学的知見を保証する標本に基づく記録は少ない。また、凶悪な負のイメージが付きまとう一方、イタチザメをはじめとしていくつかの種は、絶滅危惧種として国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストに掲載されている（<http://www.iucnredlist.org/>, 2008年12月8日アクセス）。今後は鯨類やウミガメ類のストランディング記録のように、標本や写真、DNAサンプルなどを残すために、市民・漁協・水産試験場・博物館・水族館によるネットワークの構築が必要と考えられる。

謝 辞

イタチザメの生体を提供いただいた藤沢市江ノ島片瀬漁業協同組合所属湘南丸の浜野正一郎氏他皆様、横須賀市大楠漁業協同組合の新倉真二氏他皆様、有益な情報をいただいた京急油壺マリパークの茶位 潔 氏、秋田水産振興センターの杉山秀樹氏、報告の機会を与えてい

ただいた新江ノ島水族館の堀 由紀子 館長はじめ展示飼育グループ各位に感謝の意を表する。

引用文献

- 仲谷一宏, 1984. メジロザメ科. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編, 日本産魚類大図鑑, 和文版. pp.5-6, pls.5-6. 東海大学出版会, 東京.
- Senou, H., K. Matsuura & G. Shinohara, 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum*, (41): 389-542.
- 塩垣 優・石戸芳男・野村義勝・杉本 匡, 2004. 改訂青森県産魚類目録. 青森県水産総合研究センター研究報告, (4): 39-80.
- 山田和彦・工藤孝浩, 1996. 神奈川県三崎魚市場に水揚げされた魚類・V. 神奈川県自然誌資料, (17): 73-76.
- 吉野哲夫・青沼佳方, 2000. メジロザメ科. 中坊徹次編, 日本産魚類検索: 全種の同定, 第2版. pp.135-139. 東海大学出版会, 東京.

崎山直夫: 新江ノ島水族館

瀬能 宏: 神奈川県立生命の星・地球博物館